

人権キャラクターによる人権イメージの浸透

岐阜人権擁護委員協議会

令和5年6月12日（月）に、岐阜市内の合渡保育園で人権擁護委員による人権啓発活動として、園児を対象に人権教室を開催しました。

母親カラスがヒナの5羽カラスに食事を与えてからヒナのカラスが寝入るまでの、母親



の愛情が溢れる親子の日常会話に耳を傾ける園児らの姿が印象に残りました。

園児たちには「人KEN まもる君」や「人KEN あゆみちゃん」の認知度も高くなっており、まもる君やあゆみちゃんを見たときに、命の大切さや「いじめ」をしないこと、仲良くすること、人と温かく触れ合うこと、思いやりの心を持つことなどを思い出し、意識するようになってくれることを願っています。

人権擁護委員がありがとう等の「温か言葉」を紙に書いて園児に渡し、それらの言葉の意味と使い方を説明し、「命の大切さ」を伝えました。

これら人権擁護委員による人権啓発活動は、園児を中心に保育の先生や園児の家族に

対しても、人権尊重思想の普及高揚に繋がるものと考えています。

まもる君とあゆみちゃんのウォークバルーンのアクションと園児の参加、指人形による劇のあと、言葉を添えながらまもる君やあゆみちゃんのキーホルダーを園児に配布しました。

キャラクターによる人権イメージの浸透の重要性を再認識しました。

人権広報委員会